

令和4年度 第3回小山市民フォーラム 議事録(定稿)

1. 日時 令和5年3月18日(土)14時～17時
2. 会場 小山市役所6階大会議室 6a～d
3. 参加者等
 - (1) 運営委員8人
阿久津 治(委員長)、佐藤 佑子(副委員長)、菅谷 悠樹、伊藤 弘子、戎 奈央、海老沼 和彦、竹本 真誠、知久 絵里香
 - (2) 参加者
 - ① 参加者 23人
 - ② 傍聴 一般2人
 - (3) 小山市 浅野正富市長、初澤正実副市長、濱口隆晴教育長、吉澤安総合政策部長、坪野谷統勇総務部長、古川都市民生活部長、小林典子保健福祉部長、目徳有一産業観光部長、須郷幹雄都市整備部長、高橋信雄農業委員会事務局長、諏訪良作消防長、町田哲男危機管理監
 - (4) 協力課 高山晴子総合政策課長、高橋拓企画政策係長
 - (5) 事務局 篠原正シティプロモーション課長、柿崎泰延シティプロモーション係長
松本卓、福田直行
4. テーマ 「掘り起こそう！地域の自慢と不満～小さな自慢を Only One な名物に～」
5. スケジュール
 1. 14:00 運営委員長あいさつ
 2. 14:05～14:35 参加者交流(30分)
 3. 14:45～15:45 第1部 残したい！地域の自慢と
解消したい！地域の不満
 - <15:45～15:55 休憩 (10分)>
 - 15:55～16:55 第2部 20年後、30年後の小山市のために(60分)
 4. 16:55～17:00 市長あいさつ
 5. 17:00 閉会
6. 発言
 - 篠原シティプロモーション課長
皆さま、こんにちは。定刻となりましたので、只今から、令和4年度第3回小山市民フォーラムを開会いたします。全体司会を務めますシティプロモーション課長の篠原です。どうぞよろしくお願いたします。本日は、20歳から77歳の23名の参加者、2名の傍聴の方にご参加いただいております。開会に当たりまして、本市民フォーラムの運営委員として、企画・運営にご尽力いただいております8名の市民の方を代表して、阿久津治委員長よりご挨拶をいただきます。阿久津委員長、よろしくお願いたします。

○阿久津委員長

(挨拶)

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。それでは本日の流れを簡単にご説明いたします。はじめに、本日のフォーラムで気負うことなく皆さんにリラックスして発言していただけるように、運営委員とご参加の皆さんとで30分ほど交流の時間を取りたいと思います。交流が終わりましたら、市側を含めた全体での意見交換を行います。では早速、交流に移りたいと思います。テーブルの列ごとに東側からA、B、C、Dの4つに振り分けてありますので向かって左側のテーブルにご移動いただきます。各グループでひとり3分以内を目安に、同じグループになった方に、自己紹介ください。自己紹介では、4点、①お名前、②ご出身、③参加の動機や意気込み、④今日のフォーラムで発言したいこと、市長さんに聞いてみたいことなど、を気楽にお話いただきたいと思います。ほかの方の自己紹介の際には、グループ内拍手をお願いします。それでは、席をご移動いただき、14時35分までとします。それでははじめてください。

(参加者交流)

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。いかがでしょうか。各グループ終わりましたでしょうか。では、席をご移動お願いいたします。14時40分から意見交換をはじめます。

○篠原シティプロモーション課長

それでは意見交換をはじめます。市側の出席者を紹介いたします。

浅野 正富 (あさの まさとみ) 小山市長、
初澤 正実 (はつざわ まさみ) 副市長、
濱口 隆晴 (はまぐち たかはる) 教育長、
吉澤 安 (よしざわ やすし) 総合政策部長、
坪野谷 勇統 (つぼのや のりお) 総務部長
古川 都 (ふるかわ みやこ) 市民生活部長、
小林 典子 (こばやし のりこ) 保健福祉部長、
目徳 祐一 (めとく ゆういち) 産業観光部長、
生沼 良一 (おいぬま りょういち) 建設水道部長、
須郷 幹雄 (すごう みきお) 都市整備部長、
高橋 信雄 (たかはし のぶお) 農業委員会事務局長
諏訪 良作 (すわ りょうさく) 消防長、

町田 哲男（まちだ てつお）危機管理監
が出席させていただきます。

本日の市民フォーラムは、テレビ小山放送で撮影され、後日コミュニティチャンネル等で放送されますのでご承知おきください。また、広報おやまへの記事用にも撮影をさせていただきますので、合わせてご承知おきください。

進行については、運営委員を進行役として、参加者の皆さまからテーマに関連するご意見をいただき、適宜、浅野市長からご意見、または市側から補足説明などお話をさせていただきます。

発言を希望される際は、挙手をお願いいたします。挙手いただきましたら司会が指名します。事務局がお手元にマイクをお持ちしますので、マイクを通してご発言ください。ご発言の際は、お名前をフルネームをお願いいたします。ご参加の皆さまにご発言いただきたいと考えておりますので、発言のお時間は2分以内をお願いいたします。

なお、皆さまからのご意見には、内容により本日回答することが難しいものもあるかと思いますが、議事録を作成し、貴重なご意見として市役所内でしっかりと共有させていただきます。また、市ホームページにおいても一般に公開をさせていただきますので、ご承知おきください。

それではお時間となりましたので、小山市民フォーラム意見交換を始めさせていただきます。佐藤副委員長、よろしくお願いいたします。

○佐藤副委員長

運営副委員長の佐藤です。どうぞよろしくお願いいたします。ここからは、運営委員が進行を務めさせていただきます。限られた時間になりますので、できるだけ多くの意見交換によって有意義な時間となりますよう、進行にご協力をお願いします。それでは、早速ですが、参加者の皆さまと意見交換させていただきます。はじめに、「残したい！地域の自慢と解消したい！地域の不満」についてになりますが、どなたか一番に発言をしたい方がいましたらお願いいたします。

○参加者

まちづくりについてです。まちづくりは、市が進めている、研究会、協議会を立ち上げていかないと、まちづくりが進まない状態です。私が、令和3年度、自治会長の時に 通学路が整備されないんですね。予算がないと。ところが、近くの道路が拡幅されたり。そうではなくて、通学路の解決を早くしないと、今日参加させていただいた。とにかく遅い。こんなのいけないんじゃないかというところがどんどん出てきて、どのように考えているか聞きたい。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。早速ですが、こういう場なのでいろいろな部署の部長さんたちがいらっしゃるので、早速お伺いしたいと思います。これはどこの部署になるんですか。

○阿久津委員長

今のお話は、いろいろな方向から話ができると思います。PTA 活動の中でそういう話もいっぱい出てきますし。確かに PTA でもいろんな道路が通いづらい、見えにくい、事故が起こりやすいという話もありますが、一向に伝わらないというお話です、それをまちづくりの中で協力ができたりしてもいいのではと思います。他にご意見があればどうぞ。

○参加者

子供は、下生井小学校に小規模特認校制度を利用して通学しています。先ほど通学路のお話が出たのでお話しさせていただきます。通学に関しては保護者の責任のもと、子どもを通学させるということになっています。親が送り迎えをしなくてはいけないという言い方ではなく保護者の責任のもととなっています。宇都宮市の城山西小学校は、小規模特認校で、古賀志山の方なんですが、もう 1 箇所の小規模特認校は、今回 LRT が開通するというので、LRT での通学を認めるということです。以前からおーバスを利用しての登校をさせたいということをお願いしていますが、都市計画課ではそれは学校教育課ではないか、子供に公共交通機関を利用させ学ばせることも私は教育だと思っていますので、そこも通学路と兼ねてご質問したいと思います。よろしくをお願いします。

○佐藤副委員長

貴重なご意見ありがとうございます。他に何かございますでしょうか。

○参加者

初めにお礼を言いたいんですが、3月4日小山総合公園でホワイトリボンランというのがありまして、小山市と小山市教育委員会の後援をいただきました。また関係される各部署の皆様に、ご協力くださいましてありがとうございます。早速ですが、私は豊田南小学校から豊田中、宇都宮工業、その後都内に行って、コロナもあったのですが、今は小山市でナイジェリアハウスというものを運営させていただいています。ナイジェリアハウスの運営をしながら、ナイジェリアからの留学生を27名ほど、日本留学させまして、国際交流を小山市の中でやっています。その国際交流をやっていて思うのが、やはり地域の方とのコミュニケーションが非常に大切だなと思ってます。コロナになる前は田んぼアートというのがありまして、盛んに行われました。田んぼアートの中で皆さん記憶にあると思うんですが、本田圭佑選手であったり、鉄腕アトム・ブラックジャックであったり、リボンの騎士、アニメで言うと弱虫ペダルですね。こういったものの権利調整を私、弊社の方でやらせていただきました。コロナで、無くなってしまってるんですけども、国際交流や、小山市の駅前の方たちと農村部の方とのコミュニケーションを国際

交流を交えてやろうと思っておりました。当時、私が本田選手の田んぼアートをやった時は、都内に住んでいましたが、都内の人結構参加しました。都内の人との交流の場も作りながら、小山市は新幹線もあって、東北本線でも、渋谷でも新宿でも池袋でも湘南の方まで行けるので、何かイベントを一つ大きなものを作ることによって、首都圏の方との交流の場を作れたらと田んぼアートを提案したく今日来ました。

○佐藤副委員長

先ほどの道路の話で、改めて都市整備部長お願いいたします

○須郷都市整備部長

先ほど道路の話、確かにおっしゃる通りと思います。ただすぐにはできないのも現実で、まちづくりの皆さんと話し合いながら、順番を決めながらやっているのは現実です。また、大きい道路ができるというのは、県道など管理区分が違っているのかなと思います。(市道の道路整備については、)地元の皆さんと調整させていただきながら、なるべく要望を満たせるようにと考えております。

バスの件は、公共交通担当としては、時間があえばどんどん使っていただいきたいと思っているのですが、現実(的には時間が合わない等)難しい部分もあります。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。市長の意見もお伺いしたいと思うのでよろしくお願い致します。

○浅野市長

通学路に関する要望は各自治会から数多く出ています。先ほど道路については、所管が違うというお話ありましたけれども、市道、県道、通学路になるのかもしれませんが、当然県道については県がやることとなります。県道に関しては、市からも要望させていただいているのですが、県の予算も限られてますので、当然順番に従ってになります。市についても、限られた予算の中で要望がいつ出ているのかというようなところで、優先順位がありますけれども、できるだけ数年前からの要望については、早く対応していく方針でやっています。後で建設水道部長からも補足してもらえますと思いますが、道路関係の要望が数十件ぐらいあります。それは通学路だけでなく、他の要望も含めて数十件でそういうものについて、どれだけ予算を投入すると、何年以内に終わるのかということ、今までと同じ予算でかけていくと、今ある要望だけでも10年ぐらいかかってしまう。学校校舎の関係、体育館の雨漏りについても、皆さん何度も聞かされていると思いますが、そういうものの整備も、当初3年間ぐらいで終わりにするつもりでやっていますが、今まで把握してなかったところも不具合があり、これも5年間ぐらいかかるということで、令和7年度までの予定で当初の予算規模の倍以上かけています。この道路関係とか、校舎等を中心とする公共施設の修繕等については、以前に比べると2倍以上、分野

によっては3倍ぐらいの予算を投入していますが、それでも間に合わないというのが現状です。通学路については、子供の安全の問題がありますから、できるだけ優先してやりたいのは間違いないのですが、小山市の場合、狭隘な道路が多く、区画整理が終わっているところについては、それなりに幅員も確保されていますが、そうでないところについては、車も通るのがまばらだったようなところにどんどん家が建ち、住民の方が増えて子どもたちも増えて通学するというようなことで、以前であれば子供の通学で、危険ということがほとんどなかったところが、どんどん子供の通学する数が多くなり、人数が多くなり危険性が高まり、なんとか拡幅していこうというわけなんです。家が建ってない時であれば買収したりして工事するのも早いですけれども、道路ギリギリに家が建ってしまうと買収することも難しかったり、あるいは買収した後も家が、かかっていけばそれを何とかしなければいけないということになりますので、どうしても交渉時間がかかってしまう。そういう諸々の要因があり、小山市の場合、通学路をこども整備してほしい、あちらも整備してほしいということではなかなか追いつかない現状はありますが、できる限りのことは手を打っていきたいと思っています。各自治会でも、要望したものが全て叶うということではないので、例えばその年にできるだけ優先順位をつけていただいて、市の方に言うていただけたらいいのかなと思っています。

○生沼建設水道部長

よろしくお願ひいたします。先ほど通学路の話で、まちづくりの話と通学路の話があつて、まちづくり構想の中で、構想道路を策定されていると思います。その中に先ほどの通学路の話も位置付けされていると思います。ただし、なかなか整備が進まないことにより通学路が変わってしまう可能性があり、毎年、通学路の促進協議会がありその中で、学校の先生、PTA 会長様、自治会長様、そういった方に、どこをやるか選定していただいたり、現地を確認したりで実際の整備を行っております。ただ予算の中で、100%整備ができませんが、皆さんの意見を聞きながら、順番を決めやっております。小山市は、通常道路で1,500kmほどを管理しています。先ほど県道・市道という話が出ましたけれど、市道だけで1,500kmあります。東京から九州の先まで行ってしまうぐらいの距離を管理しております。その中で、拡幅してほしいという道路もございます。また、拡幅と歩道を整備してほしいという道路もあります。また既に整備されていますが、経年劣化によって補修しなければならない道路もございます。そういった中で、全体的な予算を総合的に勘案し、歩行者の安全に関しては優先的にやっていきたいと思っておりますが、両方に建物が建っているところだと、整備に入っていけないところもあり、先ほど話しましたように協議会の中で、ある程度優先順位をつけた中、整備を図っている状況です。

○参加者

私が住んでいる千駄塚は、通学路の案件とまちづくり、実際はまちづくりの方でやってるような状態なんです。とにかく不満なのは、何でここは広くなってないのか、何でこんな工事やっ

てんのか、そのお金があるんだったら通学路ができるんじゃないか。もう設計はだいたい終わってるんです。何でやらない、予算がない予算がない、いつも言われたので、そういうお役所の言葉を改めて欲しいんですね。

○生沼建設水道部長

お住まいは千駄塚と思いますが、まちづくり構想は、ございますでしょうか。だとするとそのまちづくり構想の中で、整備されてないところが優先的に整備されると思うのですが。まちづくりの構想は地域の皆さんで策定されておりますので、その中で整備してほしい道路があるのであれば、そこも一緒に位置付けされているという認識ですが、もしかするとお話が違うように聞こえてしまったのかもしれませんが、構想認定の話と、通学路の整備促進協議会と話が別々になってしまっているの、ややこしくなっているのかもしれませんが。いずれにしても、まちづくり構想に記されている道路は道路の拡幅、さらに通学路の整備等々も一緒に実現されておと思っています。地域の皆様がどれを優先して整備をしていただけるようお願いするかということがありますから、まちづくり構想の中に位置付けされてないとすると、通学路の整備促進協議会で地域のPTAとか学校の先生から強く要望されるというのも方法かなと思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます

○阿久津委員長

結局、PTAや街の人たちの要望をまとめてやる方がこれからはいいと思います。個人の意見では、市まで届かなかつたりするところがあるかと思います。コミュニティスクールという言葉があって、地域の人たちで学校を支えていく中で、道路や危険な箇所を、街のみんなでそれを市に提言するスタイルを取ってもいいと思います。気になった部分が、おーバスで学校まで通えたりしないんだらうかというのは、いろんなところから皆さん聞く話だと思っています。この後も出てくるとは思いますが、可能でしょうか。

○須郷都市整備部長

乗っていただいて構わなくて、子供料金もあり歓迎です。乗っていいか判断するのは学校になるかなと思います。ただ本数はすぐに増えないのが現状です。

○阿久津委員長

教育長いかがでしょうか。

○濱田教育長

バス通学については、小学校の段階で議論になってないというのが、今の現状と思います。代わりに、登校班で6年生から1年生まで安全に歩いてくれるような指導をしたり、そういう集団で上の子が下の子の面倒を見ながら通っていくという方法をとっております。小規模特認校のお話が先ほど出ましたけども、小規模特認校は、地域が小山市全域から可能ですので、どういう路線を登校時間に用意したらいいか、それぞれ個人によってルートが異なってくるので、検討は時間がかかるのではないかなと思います。

○参加者

おーバスでの通学について、以前豊田南小学校におーバスを利用して通学していたという事例があるということはお伺いしています。疑問に思うところですが、小山市から県立ろう学校に通うお子さん、耳の聞こえないお子さんです。4年生から学校が可能と判断した場合、耳の聞こえないお子さんは自分で定期を使って、小山駅から電車に乗り宇都宮駅からバスに乗り、県立ろう学校まで通学しています。実際、小規模特認校に関わらず、小さな小学校ではもうすでに学区内の小学校に通っているのに児童が減り、登校班が成立できないために各家庭が送迎をしています。例えば、網戸地区のお子さんが網戸小に通っているのに送り迎えしている。これもどうなのか。公共交通機関を利用することによって、例えば環境の問題とか、免許返納の問題に関して、私もこれからきつと迎えますが、散々車に乗っていて、いきなりバスで生活するのは難しいと思います。やはり小さい時から乗り慣れていて、子供が乗る場所を走るバスだからこそ高齢者も乗れるのではないか。要するに車を持ってない人が利用しやすいようになっていけば、自ずとバスの利用が増えるのかなと私は個人的に考えています。その2点から、下生井小学校の件ですと、1時間ずつずらしていただいたら、それだけで乗れるんです。子供たち、おーバスの運転手さん見ながら一人で寂しくないのかなって毎回言ってます。誰か乗せたいんじゃないかなと。よくわかる話だなと思っています。そこに子供が乗りたいと言っているのでもうにかならないのかなという要望です。

○佐藤副委員長

素晴らしい意見ありがとうございました。誰も乗ってないなら、乗る時間に走らせるというのは、一市民として、それはそうでしょみたいに感じますので、貴重なご意見ありがとうございました

○目徳産業観光部長

田んぼアートのお話もご意見ありがとうございました。田んぼアートが都市と農村の交流の機会として、また地域振興の機会として、大変いいんじゃないかというご意見かと思います。コロナ禍になるまではいくつかの場所でされていたという記憶がございます。ただ、コロナ禍を挟んで現在実施されておられません。当時作っていた協議会が解散になったという経緯がございます。なぜ解散に至ったかですが、残念ながら前回までのスタイルが地元の方、農家、協議会、

そういう形式でみんなで協力してやってたんですが、負担がかかりすぎていたということですね。農家の皆さんの高齢化などもありまして、ぜひやろうという声につながってこなかった実態がありまして、残念ながら前回の枠組みの流れは解散となり、今に至る状況です。イベントとして観光客が来てくれるというのはあると思いますが、それを復活させる意味で、例えば市がお金を、予算を出して、地域に負担がかからないように実施することは多分可能だと思います。やり方としては、事業者を呼んで可能と思いますが、それが地域にとっていいことかということを見ると、ちょっと疑問がつくのではないのでしょうか。先ほどのお話でもあったように、個別の意見で言いますと、そういった方々が皆さんの意見で機運が高まってくるようなことになれば、理解もされますし、地域として盛り上がって地域も楽しめる、今後も新しい枠組みで、田んぼアートが最善かどうかというのはまた議論の一つかもしれませんが、一つの可能性としていると思いますので、引き続きそういった面は議論させていただきたいなと思っております。よろしくお祈りします

○浅野市長

田んぼアートは、土地改良区が重要な部分を担っていたと思うので、市として、土地改良区がやりたいのにやらせないとかということは全くなくて、地元の方たちがやりたいということであれば必要な支援をしていかななくてはと思いますし、地元の人たちがやりたくないというのは無理やりやらせてもらうということもこれも違うというところで。聞いてるところでは、ここ数年やらなかったことで、やっぱりやってみたいと考えていらっしゃる方もいるようですし、ある程度地域の方たち、土地改良区の方たちのご意向がどうなってくるのか、市として見守りつつまた復活したいというようなことがあれば具体的にご相談いただいて、必要な支援をしていきたいと思っております。

○参加者

ご意見ありがとうございます。実際運営している方々からのやりたいやりたくないの意見も、私も初めて聞いたんですけども、実際問題 4 か所という数が多かったので私は 1 か所にすべきだなと思ってるんですけど、田んぼアートに併設した農産物を売っているところが、田んぼアートの会場で一箇所だけあったんですが、そこはひと月の売上 100 万円上がったんです。田んぼアートやったことで、売るものがなくて近くのところからとにかく農産物をかき集めて、そこまで売るということをやってたんです。農産物が売れて田んぼアートができるという一つの例ですね。私の個人的な考えですけど、例えば道の駅の近くの田んぼの地主さんと交渉をして、道の駅も潤って見学もできて、そこに大きな駐車場があるので何がイベントもあってということが総合的に考えることで、まちの活性化にもつながるのではないかなと思うのが 1 点と、いまだに全国田んぼアート協議会というのがあって、小山市の代表として私、毎年出席しています。必ず全国田んぼアート協議会で言われるのは、今年の小山市は？って言われます。全国の特に一番のところが青森県田舎館村なんですけど、この後皆さん終わったらインタ

ーネットで田んぼアート・田舎館というのをググっていただければ出てくるんですけど、ものすごい立派な田んぼアートやっているところなんですけど、そこからも協力するから、是非とも小山市を復活してほしいと、なぜならば首都圏から近いということなのです。ぜひとも、民間でやれということであれば民間なりの考え方をしますが、ホワイトリボンランのように、初めのうちは後援だけで、とにかく一歩先に進むことが全てだと思っておりますので、こういう意見があるということを知っていただだけでも、今日よかったと思っております。話が変わるんですけど、おーバスで通学について、私、昭和51年から昭和56年まで下立木からバスで通ってました。通学路で森戸板金というところから、下立木の人たちは全員バスで通ってます。いつから無くなったんだろう。さっき質問の中でいつから無くなったんだろうなと思ってたぐらいで、余計な意見です。私は、6年間バス通でした。

○佐藤副委員長

いろいろお勉強させていただきました。ありがとうございます。最初からこんな活発な意見が飛び交う中、違う意見でも大丈夫なのでご意見あったらバンバン皆さんお手を上げていただければと思います。

○参加者(通訳)

まちの方に若者向けのレジャーを考えられているかご質問したいです。中学生と大学生の娘がいて、遊びたい時は宇都宮市とか埼玉県に行く必要があります。小山市には1箇所だけハーベストがあって、そこは外のため、暑い日はいけないし、1箇所しかないのです。冬は寒くて外ではハーベストを行けなくて。提案したいのは、ショッピングセンター、スポーツとか勉強ができる場所、若者が集まって何か話し合っ、楽しめる場所を作れば良いと思っております。娘さんの友達も小山市は若者向けのレジャーがない、高齢者の場所ではないのかって不満をこぼしてます。

○阿久津委員長

ありがとうございます。今と似たようなご意見持っている方いらっしゃいますか。

○参加者(通訳)

前の方が言ったのと意見が同じです。やはり若者向けの遊び場がなくて、それで週末家族とお出かけなどに行く時に唯一行ける場所が小山総合公園ですが、唯一週末に行くんですけど、行って自転車、サイクリングをする、そのサイクリングをするために行きますよね。その時に壊れてる自転車が多いっていうんですね。楽しく遊ばなくて、結局は県外の方にお出かけに行くことが多いそうなんです。

○阿久津委員長

竹本委員はどうか、ご意見としては、外国の方という気持ちも含めて。

○竹本運営委員

小山市はたくさんいいところもあるのですが、やはり若者が遊べるような場所はなく、例えば海外では、治安が悪い中だと思わなければならない量だと思わんですけど、犯罪をなくすために、スポーツをすすめましようというのが海外の主流で、やはり若者に、スポーツをやらしたり、遊ぶ場所を作ってあげることによって、心が豊かになり、素敵な大人になるというのが、海外の考え方で、それに基づいてお話ししてるのかなと思わすよね。小山市にもっと若者が遊べる場所があればいいんじゃないかなって私は思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。こちら辺で、市民生活部の古川部長に何かお話ししていただければと思います。

○古川市民生活部長

今のご意見で、若者の皆さんがスポーツをやりたいとか、休日にどこか遊びに行きたいという欲求を小山市が、現在は満たせていないとていうのがよく分かりました。休日でも、ハーベストウォーク行きの無料シャトルバスのバス停にたくさんの若者の方が並んでいらっしゃるというのは私も目にしています。そういったショッピングモールその他、スポーツ施設ですが、サッカー場も小山市の場合、なかなか整備が進んでおりませんが、今後作るという計画はしているところです。皆さん発散する場所が無いということですが、スケートボードパークも本当に小さいものですが、皆さんの声をいただいて総合公園の駐車場の一角に出来て、大変利用が活発になってきているという事でございます。個人の皆様から声を上げていただくことも一つですけれども、まとまって市に要望という形で、これからもどんどん上げていただければありがたいのかなと思います。答えになっていませんが、よろしく願いいたします

○佐藤副委員長

ありがとうございます 他にどなたかご意見ある方お願いいたします

○参加者

生井地区から参加しております。先ほど出た、おーバスの件なんですけど、子どもたちの通学に使えるようにならないのかというのは、前からお話は聞いてまして、有効な時間帯に有効なタイミングでうまく回せれば子供たちの遠方からの通学がもう少ししやすくなるのかなというのは、地域の中から聞こえてました。それと、網戸地区なんですけど、現在おーバスが通ってないんでしょうかね。使いたいタイミングで、おーバスが走ってくれたらすごく助かったのになん

てお話を最近耳にしまして。今、となり近所がどういう経路で、網戸地区を走ってるのか、自分は分からないんですが、ルートの見直しだったりとか、時間帯の見直しだったりとか、生井地区に関しては、近所の人たちの生活の圏内の最寄り駅が野木駅だったり、日常の買い物は、野木の方に買い物に行ったりすることが多いので、やっぱりお年寄りの方、車を持っていらっしゃる方からすると、やはり野木町との連携が今後うまく取れて、野木方面にも年配の方が利用できるようなルートができてくると、かなりおーバスの利用価値も上がってくるのかなと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○佐藤副委員長

おーバスのご意見がすごく多いんですね。

○参加者

商工会青年部よりまいりました。よろしくお願ひします。違う話なんですけれども、僕はキャンプが好きで、キャンプ場が昨年10月に鉢形にできたということで聞いてます。民泊の許可が下りないという問題を提起されまして、そちらでグランピングの施設を作ったんですけれども、なかなか小山市からの許可が下りてない、いつになるか見通しもないので営業ができない。もう作って始まっているのに営業許可が下りないということで相談されまして。民間主体の観光業を行政が後押しできない理由というのは、何かなのを、ご質問させていただきます。よろしくお願ひします。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

○参加者

道・バスの話に戻ってしまうんですけれども、家族で去年小山市に引っ越してきました、1歳と3歳の子供がいます、私自身は県外の方に働いてます。共働きです。去年の秋に、保育園の申請をしたんですけれども、小山市は人口が増えてきて、保育園の人数が増えてきて、多分増やしてる場所ではあると思うんですけれども、散らばってるというのもあって、送迎には車が必須という保育園が多数ありました。それで、私たち家庭の事情で車の送迎がかなり厳しい状況でして、ただそんな選択肢はもう保育所の申込書にないので、送迎が徒歩か自転車しかできないところだけをチェックして応募したんですけれども、選択肢が狭まった分、1次調整では落ちてしまって、この間、2次調整で申し込みが決まったんですけれども、そういった体験も踏まえて、先ほどのお話もいろいろ聞いていると、やはり道路の整備があまりされてないですとか、バスが使えないとかそういった問題がちょっと多いのかなと思ひまして、どうしても車社会ですので遊べる場所とか公園とかも車じゃないといけないところが多いのかなと思ひてます。子供は、車に乗せて出かけていってというのはたまにしたりしてるんですけど

も、小学生とか中学生になった時にやっぱり遊ぶ場所が少ないのが今の心配です。先ほど予算の問題とか、土地の問題とか言ってましたけれども、やはりそういった、市でしか解決できないところもあると思いますので、ぜひとも予算の問題とかあるかもしれないですけども、市民の意見を受け入れていただいて改善してもらいたいなと思いました。やはり小さい子供とか大人だけじゃなくて、若者とかが過ごしやすい所ではないと、20年後30年後住み続けたいなという市にならないのかなと考えております。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。ここで浅野市長にご意見いただきます

○浅野市長

保育園の関係については待機児童という言葉があり、待機児童はほとんどゼロに近いような形で毎年県内の自治体はそうなんですが、潜在待機児童という、要するに自分の希望するところに入れたい、どこかに入れれば、待機児童0になるんですけども、自分の希望するところに入れたいとか、入れないために仕事をお休みするのを延長しちゃうとか、そういう場合は待機児童ではなく、潜在待機児童としてカウントされます。潜在待機児童は100人を超えるぐらい、特に秋以降になると多くなってきますんですけども、そういうような状態が、小山市で続いていて県内では宇都宮小山の順で、潜在待機児童が多いです。何もしてないのかというと、どんどん定員を増やしてはいるんです。ただ昔と違って、子供たちの数は減るんですけども、1歳児とかそのくらいから保育園に預ける方、あるいは学童でも、かつてであれば学童に小学校入ってから預けなくてもですね、今は、共働きで学童に預けるということで、子供の数とは反比例する形で、保育園を希望されたり、学童を希望される方が、小山市の場合どんどん増えてる状態で、定員を増やしつつも、それでまかないきれない状態が続いています。小山市の場合、他の県内の自治体と違って、市街地でどんどんまだ人が増えている。しかし農村集落部では人が減ってるということで、保育園も農村集落にあるような保育園ですと、定員割れしている。ですから、市街地に住んでる方が、そこでは送迎できないみたいな形でどうしても上手くマッチングができていない部分があります。市街地の中の保育園とか学童で定員をもっと増やす必要があって、当分の間はこれからも定員を増やすということで、特に学童の場合は、建物も学校の空き教室を使わず、別な形で今まで学童を設置してましたので、これも手当てをしていかなきゃいけないというところで、できる限りやっています。交通・バスの問題については、かつては、おーバスが一旦は走ったんだけど、利用者が少なくなって路線が廃止されたというような地域もあります。その代わりにデマンドバスを走らせようということになるんですけども、デマンドバスで、目的地に直行できるかということ、おーバスの通るところまで行って、そこでおーバスに乗ってもらうことで、乗り換えが必要だったりということ、必ずしもデマンドバスの利用者が増えていないという問題があります。この後どうするのか、タクシーの割引券でも出していくのか、議論になってるところなんですが、こちら辺、タク

シーの割引券というの、タクシー料金の問題があって、市の方でタクシー会社と交渉して料金決められるわけではなく、料金認可制になってますので、そういう中でどこまで利便性が保てるような形で割引券が発行できるのかということも、悩ましくて、いろいろ検討を加えているところです。ただこれから高齢化社会の中で、公共交通を充実しないことには移動もできない方が増えてくる問題がありますので、小山市は公共交通に力を入れてということでは、県内でも有数の街なんですけれども、まだまだ皆様方からはもっとという声があって、そういう声が本当に大きいということになれば、予算措置もそれなりに必要があるのかなと。ただ小山市は助成金の対象になってないんです、残念なことにもっと公共交通で赤字になってしまうところには助成金が入るんですけども、小山市の場合は公共交通もそれなりに、営業的には他の山間部等に比れば状態がいいということで、助成金が入らないということでも、市から全額100%を出していくようなことで対応していかなきゃいけないということがあります。ただ、年々公共交通充実という声が高まっていますから、市としても公共交通部門への予算というのをこれからも徐々にではあっても、増やしていった本数を増やしたり、ルートを見直したり、あるいは先ほどお話ししたように、デマンドバスに変わるような形で、市民の方がバスが走っていないところでも困らないような施策を考えていきたいです。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。壺谷委員お願いいたします。

○壺谷委員

先ほどのご意見のところ、私も同様な課題があったんですけども、実は小山市が栃木県内で一番最初に送迎保育ステーションを始めたんですね。ちょうど私の子供が4月から送迎保育ステーションで、さくら保育園に行くんですけども、取り組みは素晴らしいなと思っていて、結局農村部であまり活用されていない保育園とか幼稚園とかあるのであれば、都市部から送迎を使ってもうまく活用することもできれば、都市部の定員だけを増やすのではなくて、さらに交流にもつながるかなと思うので、そういう取り組みをもっと進めていただければいいのかなと話を聞いて思いました。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。

○須郷都市整備部長

まず、おーバスなんですけど、問題点が2つあって、時間が合わないという話と乗れる許可が降りないの2つかなと思っています。乗る許可の方は我々できないんですが、時間についてはある程度調整はできるので、ご意見いただければと思います。間々田地区からは以前からご意見いただいていたので、今度は改正の時に学校にも行けるような、時間設定に変えることを

考えてます。公共交通は法定会議がありまして、法定会議が年に1回ぐらいなんです。そこを通さないといけないので、すぐにはできないのですが、時間はある程度変更できるので要望があれば、言っていただければと思います。ただ増便は難しいので、調整できるかどうかという現実的な問題はあります。次にデマンドバスですが、小山市は、小山駅と間々田駅中心に、放射線状におーバスを運行してまして、14路線あります。市街化区域を主に、おーバスが通ってるんですが、郊外について利用者が少ないということで、デマンドエリアを設定してます。おーバスが通ってないところは、デマンドエリアに設定されていて、例えば、網戸地区はデマンドエリアに入っているんで、ちょっと使いにくいんですが事前に登録していただいて、2時間半前までに連絡いただく。そうすると月～金で8時から午後5時までで限られるんですが、1時間に1本ぐらい呼んでもらえれば迎えに行きますので、地域拠点ですとか要望あれば拠点駅とかスーパーとか、相談乗れる可能性もありますので、相談いただければと思います。少し利用しにくいのですが、ぜひ試していただければと思います。グランピングの件ですけど、新聞にも出ましたが、市の許可の問題ではなくて、法律の問題なので我々の方も業者さんが来ていただいて相談に乗らせていただけてます。道路との位置関係ですとか、施設の配置とか色々あるので、改善案など、もうちょっとずらしてもらえとか、できる可能性もあるので、そんな話もさせていただきます。許可できるかどうかまでは、別なんですけど、できることはあるのでその中でどういう形で今後進めていくか相談に乗らせていただけてますので、引き続きご相談になると思います。

○参加者

本当に度々すみません。デマンドの方もきちんと調べました。デマンドだと定期券がないんです。デマンドの定期があればなあと。

○参加者

これから超高齢化社会がいろいろ進んでいく中で、免許返納とか、若者の方もかなり減っていく中で、交通機関を維持していくということが非常に大切になってくるかなと思っております。ただそこを行政だけでやっていくとなると、やはり財源の問題とかいろいろかなり難しいところがあると思うので、民間とどういった形で取り組んでいくかお考えがあるかと、環境問題もあるかと思っておりますので、ゼロエミッション、マーズとか言われてるところと組み合わせながら、未来を作っていくかをお考えがあれば教えていただきたいかなと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。ほんとに素晴らしいご意見だと思います。皆さんの願いがあっても行政だけではできないというところもあると思うんですよ。民間の協力なしではできないと。例えばこういうところを民間でやってくれると実現するんじゃないかみたいのが、もしあれば。

○参加者

これから高齢化社会になり、子どもが減っていく中で、どう公共交通機関を維持していくところが非常に課題になってくるかなと思ってます。そうすると財源というのものも、収入を得られる方が、現役世代の方、減っていくということで税収もかなり厳しくなっていくのかなと思っているので、その辺を民間との連携をどう考えた中でやっていくかっていうものが非常に重要になってくるかなと。民間の企業とコラボレーションして、公共交通機関の整備とを維持していくというお考えがあるかどうかとか、例えば栃木県ですと日産自動車とか本田自動車の工場がありますので、そちらと実証実験を含めた自動運転の特例を国から取っていただいて取り組みをするとか、そういったお考えがあるかないかお聞きしたいかなと思います。難しいかと思うんですけど。

○生沼建設水道部長

もしかすると的を得てない回答になってしまうかもしれませんが、市が運営しているコミュニティバスは、基本的には企業にお願いしてるんですけど、料金以外の費用は、足りない部分を市から補助していますから、民間とある意味連携はしているんだと思います。全て小山市でやってるというわけではないです。小山市が自分で車両を購入して運転手さんも雇って運行してるというわけではなくて、先ほど申し上げましたように、民間の事業者様が運営してもらって、料金を取ってもらう。足りない部分は小山市が負担する。一方で、話は変わりますが、宇都宮市がやろうとしてるLRTにつきましても、基本的には第三セクターで運営してますけど、ある意味民間だと思います。やはり民間で運営していただくためには、やはり民間も赤字ですと、運営はなかなか難しいのではないかなと思います。ですから小山市のやり方が民間と連携するかどうか微妙なんですけども、ある程度民間の運転手や車両とかを活用しつつその中で支援しているということで、ただし民間さんには赤字は、出させないと言いますか、赤字まで補填してやっていただくのは難しいのではないかなと思います。なので、まず1点は先ほどMassとか、自動運転とかそういうところについては、私はお答えづらいんですけども、今の現状は民間で何かのメリットがないとなかなか難しいのかなと感じます。今後うまくコラボして公共交通を維持していくためにどういったアイデアがあるかというのは、今の段階では答えられないんですけど、現状についてのみお答えさせていただきました。

○阿久津委員長

副市長いかがでしょうか。

○初澤副市長

朝、企業が運行しているバスを、日中は社員さんの送迎に供さない時間帯を一般の住民の方々の交通手段として活用できたら、費用負担については、企業さんと例えば市で折半する。であれば費用負担としてもウインウインですし、会社の方々と住民と、ウインウインになるので

ないか、思いつきですけどもそういった手法もあると思いました。あとは何より公共交通機関を維持するためには、住民の方が多いに利用していただければと思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。まだ皆さんいっぱいご意見はあるかと思うんですけども、一部を終了して、10分間の休憩を取らせていただきたいと思います。

○篠原シティプロモーション課長

10分間換気を含め休憩とさせていただきます。再開は16時とさせていただきますのでよろしく願いいたします。

(休憩 10分間)

○篠原シティプロモーション課長

それでは小山市民フォーラム第2部を始めたいと思います。佐藤副委員長、よろしく願いいたします。

○佐藤副委員長

それでは、第2部を始めたいと思います。第2部は「20年後、30年後の小山市のために」です。第1部の自慢と不満を受けて、20年後30年後の小山市のために残したい、オンリーワンな名物にしたい自慢について、意見交換したいと思います。どなたか発言をしたい方がいましたらお願いいたします。

○参加者

こんにちは。おやまくまというキャラクターを作っているんですが、もともとは小山の人間ではなくて、13回の転勤の中で小山にたどり着いた人です。ですが、そういうよその人がすぐ来やすい街だと、うちの両親が言っていました。そこで一つ私なりに思ったのは、小山に先ほどから皆さんが言っているお店がもっとあったらいいのになとか、有名なお店とか大きなお店を建てようと思ったら、やっぱりそれなりの大きな街のイメージというのがすごく大事だと。私なりに思うのは、やっぱり大きい美術館とかホールとかそういうのが欲しいなと。私すごく美術が好きで子供も大好きだから、美術とかそういうものに触れる機会が小山ではあんまりないと思ってんですけど、たくさんそういうのに触れる機会があったら子供たちが遠くに行かなくても、東京とかそういう有名な美術館までの話じゃなくて大きいものがあればそれなりの文化的な街になって、それがたくさんのお店を作るきっかけになって子供とかが、さらに感性豊かで先ほど竹本さんとかもおっしゃってましたけど、スポーツをする場所と同じような感覚で、美術とか芸術の方にもっと力を入れてったら20、30年後の小山とがかなり雰囲気を変

わるんじゃないかな。自然と都会が一緒になったようなものを目指すのであればそういう魅力がもっと増すのかなと思います。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。知久委員お願いいたします。

○知久運営委員

ご意見に賛成で、私は音楽に関わっておりまして、演奏活動などで、舞台とかいろいろなところを使わせていただいておりますが、特に小山市立文化センターが、これから耐震工事なども入られるということは聞いております。舞台に立つ人たち共通の意見なんですけれども、すでにボロボロな印象でして、本当にトイレも楽屋も、お化けが出そうなぐらいです。他の県のホールなども、使わせていただくんですが、そちらと比較しても小山の文化センターの状況というのは非常に心配になるレベルでして、今後どういう風になっていくのかな、この場でどのようにお考えか、美術や音楽の分野の施設がどのようになっていくかということをお教えいただければありがたいなと思います。

○濱口教育長

小山市は、以前から生涯学習に非常に力を入れておりまして、公民館などの活動なども非常に活発だったんです。ところが全体の統括を中央公民館が以前はやっていたんですが、それが民間委託になり、司令塔がいなくなっていた状態が続いておりました。それで昨年度から、生涯学習センターを立ち上げて、そこが生涯学習全ての、コラボを考えてみたり、いろんな事業を立ち上げて、もっと小山市の文化活動を活発にできないか、生涯学習活動を活発にできないか、生涯学習の第3次計画を作るのと同時に具体的にどうしたらいいかずっと考えていたわけです。新聞でご存知の通り生涯学習センターというコントロール部分が、今度は直営ということで、小山市の生涯学習課の職員がロブレの中にその拠点を作って、そこで全体を見ていこうとしていくわけです。それとも関係があったんですが老朽化してきた文化センターをどうするかも以前から問題になっておりまして、それをずっと1年ぐらいかけて検討してきました。懇話会という会議を立ち上げて検討して、そこから受けた提言が今お話になった建て替えを前提にして考えたらどうだという提案を受けました。2月議会の最後に議員の方たちからも、複合施設として素晴らしいものを建てることを議会としても大賛成であるというようなことも受けまして、それではこれから本気になっていこうかと。具体的にどういう計画かと言われてもこれからの話なんですけど、そういう方向だけは今決まったところです。建てる時にいろんな条件が市としてやる場合にありますので、そういういろんなところを検討しながら、いろんな要望をもちろん十分承知しておりますので、今まで活発にそれぞれやっていたことがもっと一体化して、市全体で生涯学習が盛んになるように進めていきたいと考えておりますので、もう少しお待ちいただければと思います。そのうち具体的に発表になるかと思えます。小山市は市立

美術館として、間々田に車屋美術館があります。ご覧になったでしょうか。収蔵庫がないので作品を色んなところに交渉して借りてきて、一定期間展示をするのですが、そこも、検討をして何とか、例えば小山市出身の有名な芸術家の方もいらっしゃる、例を挙げれば、宇都宮の県立美術館で展示している、版画の小口一郎さんと、小山市出身の方、小久保裕さんという画家の方もいらっしゃいます。そういう方達が地元出身でいらっしゃるので小山市の美術館へ行けば、そういう方たちの作品がいつでも見られるという面でも美術館も検討を始めたところで、合わせて生涯学習の一環として考えておりますので、そちらの方もお知らせしておきます。

○阿久津委員長

可能性があるということですね。市長からいかがでしょうか。

○小山市長

小山市の場合は、文化センターは、かつては良いホールと言われていたんですが、年数が経って、まわりの自治体にそれなりのホールができる中で、だんだん競争力を失って、良いプログラムについては小山市文化センターではなく、他の街でというようなことが最近多くなってきています。そういう中で、耐震性の問題があって、今回天井にネットを張って、天井が落ちた時に、ネットでそれ以上落ちないようにやるだけで、結局もし天井が落ちたとすれば、その後はもうホールとして当分使えなくなってしまうわけです。ですから、あくまでも本当に緊急避難の工事ではないので、先ほど懇話会が限りなく建て替えを追求してもらいたい意見が出ましたし、議会でも、複合施設として新築をとという提言が出ましたので、市としても基本的には建て替えということを前提に、これから検討していきたいと思っております。美術館についてもまだ具体化はこれからの話なんですけども、とにかく検討を始めようということやっていきたいと思っております。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。先ほどお手を上げていただきました方お願いいたします。

○参加者

小山市の小さな自慢というところでたくさんあると思うんですけど、その中で絶対的な自慢として小山駅をあげさせていただきたいと思っていて、新幹線が通っていて東西南北東京辺りまで、一本で行けて、大学があるので若者の乗り降りが発生していることと、足利フラワーパークへの乗り換えにも使われていて、東京から小山に帰る時なんですけど、小金井行きが、思ったよりたくさん多くあって、宇都宮駅まで、県内絶対に負けないくらいのすごく便利な駅だと思っています。小山駅はすごく自慢です。これだけ揃っているのに駅前がちょっと寂しい。理由は色々あると思うんですけども、理由として駅の利用者がメインターゲットになってないんじゃないかと思っています。現段階なんですけど、車ユーザーや送迎車がメインの駅前に

なってるんじゃないかと思っています。例えば、ヤマダ電機や、ジョイホンが新しくできましたけど、入り口が駅に背を向いていて、駅前の一等地、広大な東口、ロータリーがあると思うんですけど、バスやタクシーなら分かりますし、必要なのは分かるんですけど、そんなに駅近くの一等地に寄せる必要があるのかと思っています。東・西に点在している駐車場なんですけれども、平面である必要があるか、駅にそんなに近づける必要があるのかと思っています、今の小山市が進めているコンパクトシティ、ウォークブルシティがあると思うんですが、素晴らしいことなんですけど、おーバスで郊外と中心地を結ぶというところに力を入れていて、素晴らしいと思っています。そこで、同時に中心部は都会に負けないくらい、都会に近いぐらい歩きで生活が完結しないと、近い生活ができないと、郊外と中心部をおーバスで使う意味がなくなるんじゃないかと思っています。ニュースで西口の開発計画されているというところで、開発を進める上であくまで優先順位の問題なんですけれども、開発の中で車ユーザーをメインターゲットしてしまうと、ハーベストやイオンに負けてしまって、結果的にまた駅前が寂れてしまうんじゃないかと思っています。私個人としては駅前に何ができるかどうでもいいと思っています、皆さんが話し合って決めればいいと思っていますんですけど、ただ、駅前は駅の利用者と徒歩圏内の近隣住民と何よりも歩行者をメインターゲットにしてほしいなという思いがあります。

○阿久津運営委員長

ありがとうございます。今のご意見は本当にたくさん出てるところだと思うんですね。これだけ交通の便も良くて全て揃ってる。ところが何か、なんでだろうなって。駅前の寂れた感じ。私は駅前にいる住人なんで。

○須郷都市整備部長

いいお話をありがとうございました。おっしゃる通りだと思います。やはりこれから街中は車中心から人中心ということで、都市整備部といたしましても変えていきたいと考えております。先ほどの話に出てましたように、美術館・博物館・文化センターどこになるかわからないんですけど、なおさら歩いて移動できるような街が、30年後を目指す時に求められると思います。今、車中心になっている経緯は歴史的に舟運から鉄道、それから貨物に自家用車ということで、車中心に都市が発展して必然的に結果的にそういう発展を遂げて結果がこれで、車道2車線を4車線にすれば便利になるのではなくて、車が速度を上げて走りますので、人が歩きにくくなる、そういう結果、そういう歴史があるかと思っています。それから将来を見据えて、人中心の歩いて暮らせる街を作っていきたいと我々の方では考えております。ただすぐには実現できないので、話しながら将来を作りたいと思います。

○佐藤副委員長

先ほど、手を上げていた方。

○参加者

市長に聞きたいのですが、20年後10年後でもいいんですけど、20年後の小山市としてのありたい姿、将来構想みたいなものですかね。それがあればお聞きしたいというのと、今いろんな意見が出てますけど、非常に難しい観点ではあると思うんですけど、そういうものをお持ちかどうかということと、まちづくりはいいんですけど、今は限ったことじゃなくて、みんなが車社会って言うんですけど、みんなが車を持つ必要もなく将来的に必要ななくてシェアしたり、駅前にシェアできる車をシェアさせるというような考え方もありますし、そういう関係も含めて将来構想をお持ちでしたらお聞きしたいです。

○浅野市長

田園環境都市のまちづくりということで、いろいろ趣旨をお話すると、トップダウンで市長こういうまちにしたいんだよということを聞きたいとよく言われたりもするんです。でも私は、ボトムアップしていかなきゃダメだと考えていまして、自分たちが住んでる街をどうしたいという、それが市民の中になければ、そしてそれが共通認識持てなければやっぱりいい街は絶対作れないと思ってるんです。ですから市民フォーラムもそうですし、今いろんな計画でワークショップをやったりとか、意見交換やったりするんですけども、とにかく市民が、ひとりひとり考えてもらうことが一番大切なことで、市民がお客さんになっちゃって、行政にやってもらえれば自分たちの生活良くなるんじゃないかと思ってるんですけど、この30年間見た時に、日本が世界の中で取り残されちゃってるというのは、自分たちで考えて自分たちで、こういう街を作ろう、こういう国を作ろうというところの議論が決定的に足りなかったんじゃないのかなと私は思ってるんです。もちろん、私自身の中で理想的なものはありませんけれども、それを先に言っちゃって、じゃあ私がやりますって言って、他の方は観客になっちゃって、市長にやらせろ行政にやらせろっていうのは、決していい話じゃなくて、皆さん 達がやっぱり、あそうだよ、こうだよ、やっぱりこういう街にしていかなきゃいけないよね、こういう県・国にしていかなきゃいけないよねって、そしてそのためにどんなことができるんだろうということで、みんなで作っていくことがすごく大事で、それをこの小山市でやっていきたいなと思ってるんです。今日、第2部は20年後30年後の小山市のためにというタイトルでやるはずだったんですが、これってその田園環境都市ビジョンというの、30年後の小山市をどうしてつたらいいのかなってところで皆さんとビジョン作りしましょうということなんです。田園環境都市という言葉自体は、小山市の大きな特徴として、田園環境と都市環境が非常にバランスが取れていて、半分いなか半分都会というのが大枠としては小山の魅力なんじゃないかと。その魅力の中で細かく見た時にやはり各地域あるいは自分たちの暮らしてるエリア、そこで何がいいんだろう何を残したいんだろうということを、みんなに考えてもらう。各地区地域で考えてもらったものを持ち寄って、それでそれを共有しながら、小山市全体として何を残してつたらいいんだろう、何を大事にしてつたらいいんだろうというようなところで、30年後の小山市にしていきたいねとビジョンができればと思ってるんです。例えば駅前のお話につい

ても、やはりこれからの小山というのは本当に皆さんが小山駅前の周辺というのは歩けるような街にして、歳を取ってる私たちの年代になると、かつての三夜通りとかみつわ通りで、本当にものすごい数の人が週末とか行き来して、活気があったことを覚えてるんですね。本来その駅周辺はそういう場所だったのが、今は車で行く時に、小山駅は車で行って車を置いてそこで買い物するって言っても、返って郊外型のところ行っちゃった方が便利だということがあって、駅周辺にわざわざ買い物に行かないとなってるわけですけども、かつての歩き回れて、そのまま文化センターとか美術館とかそういうような文化施設があったり、買い物ができるころがあったり、あるいは緑があって公園があって、駅から思川まで歩いてくると、ちょうど距離的にもいいですし、両脇にそれぞれ个性的なお店が並んだり美味しい食べ物屋さんがあったりすれば、半日でも楽しめる場所にできるんだろうと思うんですよね、そんな風にしていきたいというようなことが、小山駅周辺のビジョンとして、駅周辺のまちづくりプランをやってますけども、それをどんどん広げる形で、各地域、小山市全体で田園環境都市ビジョンというように、令和5年度6年度、2年間、これからかけて作って、そういうビジョンができたならそういう街にしていくために、何をやったらいいんだろうということ、総合計画とか、総合計画の元に個別計画をたてて、いろんな事業をやっていく。先ほどの公共交通の問題とか保育園の問題とか学童保育の問題とか医療の問題とか、みんなそういうものが30年後の小山市もどうなるんだろうということ、みんな考えながらビジョンづくりができたならなと思っております。

○参加者

その中で、ボトムアップの話があるんですけど、特に、我々世代じゃなくて若い人の声、特にすくい上げてやって、特に反映させていただけたらと思います。

○参加者

子供の話になってしまうんですけど、今日夫婦で来させていただいて、これから子供限定で言いますけども、20年後30年後の小山市と言うと、子供 1 歳と 3 歳ですけども、その子が 21 歳 23 歳 31 歳 33歳になり、就職、もしかしたら結婚して、子供がいてという次の世代にある。その20年30年後に生きてほしいので、安心して生きていける小山市であってほしいという理由から始まる話なんですけども、やっと出産が終わって1歳と3歳になって保育園が決まりました。と言っても保育園は公立保育所になるんですけども、それがもしかしたら令和 7、8 年ぐらいにならないと入れないかもしれないということです。そうすると上の子はもしかしたらそのまま小学校の生徒だと思うけど、下の子は保育園に入ります。そこでまた環境も変わるし、こちら登園させる方法を考えなきゃいけない、先ほどのおーバスを使ったりとかあったら嬉しいですけども、さすがに今現状すぐには難しい。でも私は持病を持っていて車の運転ができません。今自転車で登園させないといけない。それを大変だと言いたいわけじゃなくて、遠くの方に入園してしまったら、それだけの時間はかかり、お金がかかり、負担がか

かって、仕事もちょっと抑えなければならぬというところもあって、やっぱりそこで金銭面の子供が安心できるかどうか不安になるような事が出てくるというのがまず保育園の問題で、これから大きくなれば今度は学童の問題、学童になれば入れるかどうかわからない、そしてこちらは小学校に入れば短時間勤務がなくなってしまうので、一人で子供がいなきゃいけない状況になるかもしれない、暗い中、小学校1年生が帰らなければいけない、家に帰らなければならぬという状況になるかもしれない、そういった不安がこうある。それが小学校6年間続いて、中学校になれば今度は自転車で通わなければならない。自転車で通って自転車の乗り方を教えるのは親かもしれないですけど、その交通の便というか交通の安全面を考えるのはこちらができないので、先ほど言った通学路の整備してもらえると、そうしてもらえるとここを通れば安全だ、安心だということを教えられる。自分も安心できる、子どもも安心できるというところで、それがどんどん続いていくと嬉しいかなと思うんですよ。先ほど保育園のこともありましたけど、学童のことで通学路の話も続けてやりましたけども、市の金銭面とかあると、それを補完する意見というか、補完するものが欲しい、保育園であれば認可の保育園に入れなかったら、認可外がありますよじゃなくて、認可外に、こことここがあって、自分の地域はここがあって、ここがおいくらで何人入ります、という情報が欲しい。認可外に行ってください、認可外に電話してください、それでおわっちゃったんです。こども課に行ったら。学童に関しても入れなかったら、こことここが預かってくれますよ、いくらですよ、何人まで預けられますよ、何時まで預けられますよという情報が事前に知っていると、それだけこちらも対応しやすい。就学に関しても学校に関しても、こことここを通れば安心ですし、ここは狭いですからちょっとおかしいですね。また、おーバスが使えるよとか、そういう話をどんどん入ってくれば、こちらも安心できる。市としては個人のところに関われないところはいっぱいあると思うんですけども、やっぱりこれがダメだったらこれが使えます、ここが便利ですよという情報を窓口なり電話なりした時に教えてもらえるとすごく助かる。教えられないんだったらホームページ内に全部乗っけてもらえると全部こちらが見ますから、全部掲載していただきたい。

○阿久津委員長

大変貴重なご意見だと思います。いったん、もう一人いっちゃいましょう。

○参加者

先ほどから、ずっと話を聞いていて、市長さんにボトムアップの大切さっていうところは大学の授業とかでもそういう話を聞くので、とても共感できて、ぜひ20年後30年後、そういうまちが出来上がってほしいな、そういう仕組みが出来上がってほしいなと思います。その上で2点ほど思ってるところがあって、先ほどモーターリゼーションとかウォークブルなところで、駅前が歩いて生活が完結する話があったと思うんですけど、自分の中ではサイクリングがツールとして使えるんじゃないかと考えていて、都内に通ってるんですけど、ハローサイクリングという民間企業と連携して、例えばコンビニとかに駐輪場を設置して、そこに自転車があっ

て、例えば 1km だったら 1km 歩いたら 1 キロ先行った頃にまた別の駐輪場があるからそこに乗り捨てることができるよみたいな、そういう自転車を使ったまちづくりを多くやっている印象があるので、小山市もそういうの取り入れていただけるとすごくいいなと思いました。そうすると交通渋滞も緩和して、おーバスが20分遅れるとか、35分遅れるとか、よくわかんない情報が減ってくると思います。2つ目ですけど、自分は農村部に住んでいるので20年後30年後、農村部を考えた時に果たしてこのまま農業って存続するのかなってところがすごく疑問に思ってます。というのは、今は若い人、なり手がそもそも少ないし、やってる人が高齢化してるし、20 年後それこそ100 歳になっても農業やるんですかということなので、そういったところで、例えばなり手を養成するために何かやってるのかなとか、都会の人とか需要あると思うんですよ、田んぼアートも先ほどたくさん都会から人が来るという話を聞いていたので、そういうところ需要があると思うのでぜひやっていただけたらなと思いました。

○小林保健福祉部長

先ほど保育園とか学童保育であるとか、いろいろ不安があるし情報がなかなか窓口から伝わってこないというお話をいただきました。その中で、保育所が無くなってしまうというふうなお話いただいたところですが、実は保育の需要というのがまだまだ増加している状況で、少子化でございますが、ニーズがあるということもあるので、今のところ再度見直しをするという段階になっています。施設整備につきましても、まず将来的な子どもの数であるとか保育の伸び具合であるとか、あるいは市民の方の声を来年度改めて調査をしまして、市民の方も外部の皆さんの意見を伺いながら保育計画の見直しを進めていくところになっております。またそういったものが見えてきましたら、皆様にもお知らせしたいと思っております。それから先ほど認可外の保育施設の情報とか学童保育はどんな状況にあるのかということが、窓口で教えられない、そんなふうなお話をいただきました。非常に反省するところなんですけど、保育所ですと公立民間とも市の方で利用調整をしているので情報が全てわかってるんですけど、認可外の保育施設になると、その都度その施設の方にその時の情報、空きがあるのかとかどのぐらいの人数だったら受けられるのかを確認して、それからお客様にお伝えする、そんなような形になってしまっているんで、なかなか情報の共有が不足しているところがありまして、反省点かなと思っております。学童保育施設についても入所の調整につきましては、各学童保育クラブで運営するということがあるので、開設の時間ですとか、経費というのはもちろん把握しているんですけど、その時点で、預かれる状況かどうかを、やはり市の方も学童クラブに確認してそれから問い合わせ先のお客様にお伝えするというふうな流れになっているので、そのところを今後さらに情報の共有を施設側ともして、問い合わせがあったときにお答えができるように見直してまいりたいと思っております。

○阿久津委員長

ありがとうございます。すごく内容が濃いと思うんですけど、私からも聞きたいことがあって、

例えば学童の横のつながりというのはあまりないんですか、例えば、どこに聞いたら何人空いてるといった情報が早く分かればいいってところで、そういうところが横につながってくれてると、今現状ありますか。

○小林保健福祉部長

空きの状況になると、同じ運営者が複数の学童を運営してたりというところは、常に情報の共有がされてるんですけども、違う運営者ではそこまで情報は共有してないです。

○阿久津委員長

そこら辺も踏まえて今後、民間でできることでもあると思うので。ありがとうございます。

○目徳産業観光部長

農業と農村の存続のご意見でした。農業の担い手、農村地帯が衰退してきているんじゃないかというご指摘は、当てはまりますし、全国的な課題と感じています。小山市におきましても、この広い農地、現状では平地が広がってますので、田んぼ、米、それ以外にも麦ですとか様々な野菜、各農家さんが栽培し、販売されているという状況でございます。後継者がなかなかいないということにつきましては、市・JA が連携して、まずはイチゴから新規就農塾というようなものを、昨年立ち上げまして、新規の担い手を育成しようという取り組みも始めましたし、これまでも、後継者になるために、最初の3年間限りの制度で、月々いくらずつ出して、補助しつつ経営が軌道に乗るまでは応援しようというような制度(新規就農者育成総合対策)も準備しておりますので使っていただいている状況ではございます。農業自体が衰退してくるという面では、農業と農村、生業としてのものと、農村部、この辺りは市街地ですけれども、農地が広がっている市街化調整区域は、地域としても存続しないといけないというのは市各部が共有した課題の認識のもと、なんとかしないといけないというのは把握しております。各部が共通しながら、いろんなことを活性化させるための拠点となる施設を作ったりとか、地域でなんとか頑張ってもらおう施策は打っていますので、まずは農業という面で言うと、しっかりと小山の農産物を食べていただいて、応援してもらおうとともに、企業の人に、農村部の例えば植栽活動を手伝ってもらおうとか試みも、これからしようとしておりますので、都市との交流ですとか、市民農園を広げていこうとかいろんな話はしております。なんとか元気な農業となるように頑張っていけますのでいろんなご意見いただければと思います。引き続きよろしく申し上げます。

○佐藤副委員長

市側からの農業に関する意見だったんですけど、実際に農業に携わってる方が運営委員にいますので、海老沼さんよろしく申し上げます。

○海老沼運営委員

生井地区で農業やってまして、主に米と麦、小山市関係では「なまいっこ」「ふゆみずたんぼ米」これも生産しております。後継者問題というのは、今言われた通りに、危機感がかなり前から出てます。農業問題簡単にというか単純に言うと、国の制度が変わらない限りダメだよ。なんとなくそんな気がします。現場とすると、いくら市とか県が頑張っても限界あるんです。本当は国を動かせる農水省を動かせる、それが本当は一番いいんですけども、そこら辺はやはり行政がなんとかパイプを繋げていただくのがいいですし、先ほど言われたように、今後力を色々発揮していただいて動いてもらうのもいいのかなと。本当に現場の声というのが届かないんですよ。途中で消えちゃうんで、それを行政はきちんと上まで持ってってもらうのが一番。実際、国は農業関係ですと米麦ではなくて、イチゴとか、園芸施設、そういうのを推奨するのは確かです。市と行政と農協、それで後継者育成関係をやってるんですけども、それはそれで一つのやり方をしたらいいと思います。うちの方の農村地帯、米麦農家が多く、米麦の場合どうしても面積を張らないと生計が成り立たないのが現状です。今の80代ぐらいの人たちは、4ヘクタールぐらい、ところが、今は15ヘクタールから20ヘクタールやらないと、個人の家では生計は成り立たない状態になります。ただ米麦の場合は施設投資が半端じゃなく、最低1500万とか2000万はかかっちゃう。それなんで設備投資、そして場所も必要になってきますよね。機械だけがかかった上に、建物がかかるといので、設備投資してというのは厳しいのが現状です。そういう中で、地域というものを引き継いでいくためには、まずは自分で折れない心を持って。それが一番重要。なんとかやる気あればなんとかなりますから。諦めたらそこでもう物事終わりです。今までの経験で言わせていただきます。私も元々サラリーマンやりながら、最終的に今専業農家ですけども、まず折れない心を持つことが一番。ついでに何点か、担当の方たちいるんで伺いたいんですが、小山市ではないんですが、他の行政で農家が空き家が多い。そういう中にちょっとした農地が残ってるんですね、そうするとその畑を利用して、家庭菜園ができるのに、その空き家を購入できない。結局、農業者じゃないと農地が購入できないという、これもまた面倒くさい法律があるようで。そこら辺今後変わっていくのかなと思うんですけども、そこら辺は農業委員会の方に説明いただき、地域でやはりよく言う消防団の問題。これ確かに人がいないでも定員を取らなきゃいけない。当然人数が減ってくるんで、その定員の問題もいろいろあろうかと思います。また地域の人も消防団が何で必要かという認識をされてないのが現状なんで、そこら辺も説明が末端まで行くような形があるといい。生井地区は災害があるんでその災害に対して、危機管理課が見えてますんで、そういう方面でも危機管理課の内容というのを農村地帯以外の人あまりわからないと思うんで、そこら辺も説明していただけるとありがたいです。

○阿久津委員長

ありがとうございます。素晴らしい運営委員らしい振りの仕方でありありがとうございます。まずは、農業については、ここにいらっしゃる皆さんも同じこともあると思うんですけど、せっかくですので、農業委員会事務局長より何かありますか。

○高橋農業委員会事務局長

先ほどご質問をいただきました、海老沼さんご自身は、地域で法人をされていて、とても地域のために尽くしている方だと思います。そしてこのようにいろいろな発言をして、素晴らしい方だと思います。その上で、地域で残ってしまっている農地とか、どうしていくかという問題に入ってくるわけです。実際は、街の中に住んでいる方と、市街化調整区域に住んでいる方については、やはり法律的に色々ありまして、開発をしていくというのが難しいとかそういった面もございますので、一概にこれができる、できないってことは言えないんですけども、ただハードルは高いです。農地法、これまでは下限面積という農業をやるための面積というのが、新たに取得する農地を含めて50アール(100m×50m)以上の農地がないと、農業経営ができないという条件もございましたけれども、今度4月1日をもちましてその下限面積というのが撤廃になります。ですが、簡単に今まで農家しか買えなかった農地を買えるかと言いますと、またそこには農業するための条件、その部分については、撤廃はされていませんので、営農の計画などを出していただくことに今後なっていくかと思います。ただ、いずれにしても農家が田んぼとか畑を管理しないようになりますと、耕作放棄地ですとかそういったところが増えて環境にもかなり影響が出てしまいますから、農業の分野としては国が推奨している、今まで人農地プラン、聞き慣れない言葉なんですけれども、地域の中心となる後継者に多くの面積を担ってもらって、全体として市域の農地を管理していこう、そういうシステムになっていたんですけども、来年度からその部分が法律によって指定されまして、地域計画という10年後に目指した農地の地域の農地の利用の姿を示していこうという方向で農業は進んでいく予定になっております。ですから今70歳ぐらいが農業者の平均年齢の時代ではございますが、あと10年15年はそういった中で中心的な方、または新しく農家の法人として農業やっつけられる方、認定農業者、そういった方が中心となってやっていく。来年度4月から全体として対策していくことになっております。それは農政も農業委員会も含めて、そして地域の農業委員さんやそういった方たちも全部含めて対策していくことになりますので、地域農業を進めようとしていますけれども、やはりやめる方がかなり多くなっておりますので、農地を荒らさないように、何かそういう兆しが起こるようなことがありましたら、なるべく荒らさないうちに周りの方に引き継いで生産をしていただくとか、耕起をするだけ、うなうだけでも構わないと思うんですが、そして草を生やさないような対策をしていかななくてはいけないと思って活動しておりますので、皆様方も農家ではないと言ってもやはり地域の自然そして環境を守るために、そういったところにも目を向けていただければと思っております。

○参加者(通訳)

小山市は、以前に比べて外国人がすごく増えています。それなので、外国人向けにももう少し情報があってほしいです。例えば、市の行事や看板など、特にゴミ類に関してで、外国人と日本人とのトラブルが多く、間違いがあると必ず外国人の責任にされます。今後20年後30年後、

もっと外国人が増え、いずれか多文化共生になることでしょう。その前に一刻も早く良い方向に向かってほしいです。

○阿久津委員長

ありがとうございます。前々回、多文化共生のフォーラムをやった時にもそういうご意見いただきました。私たちも盲点だったところは、説明をしても伝わってなかったって、例えば、たわしとかバケツって通訳できないんですって写真がないと。たわしって書いてあっても、たわしを訳せない、写真がついてないとおそらく分からないというお話なども、その時頂いたんですけど、今の話、市民生活部長から何か打開策じゃないですけどこれから考えてることあれば。

○古川市民生活部長

ただいまのお話ですが、小山市には約70カ国7,000人ほどの外国人の方が住んでいらっしゃるしまして、使われる言語も様々でございます。今まさにおっしゃっていただいていることが大きな課題となっておりますが、そのような中で外国の方も長く日本に住んでいらっしゃるとう母国語に加えてやさしい日本語、分かりやすい簡単な日本語であれば通じるようになってくる方が多いと伺っております、今年度初めて、自治会の方向けに、やさしい日本語教室を開催しました。大変好評で、自治会の役員の方も、同じように外国の方とどう接したらやはりお困りになってる、お互いが困っているという状況を何とか解決するために、やさしい日本語を今後もっと地域に広めましてコミュニケーションをとっていけるように対策をしていきたいと思っておりますのでぜひご協力いただければと思います。よろしく願いいたします

○参加者(通訳)

はじめまして、小山市クリスチャン協会の牧師です。カウンセリング専門の先生です。私の仕事は困った人を助け良い道へ導くことです。最近最も多い相談が外国人に対するいじめです。職場でのいじめや差別、また警察の対応も外国人に対してあまり良くないです。ほとんどの相談者が真面目に働いている方で、定住者や永住者、税金も普通に支払っている方たちです。それなのでもう少し大目に見てほしいです。中には誰にも相談ができず、ずっと悩みを抱えたままの人もあります。そこですべての人にとって良い平和で安全な社会になるために私たちは何ができるでしょうか。

○阿久津委員長

ありがとうございます。そうですね、受け止めることは受け止めますし、現状もお話しいたけますか。

○坪野谷総務部長

今のお話というのは、小山市では総務部の人権に関わる部署が所管しております。今のお話

を難しくするという意味ではなくて、小山市では昔から人権の尊重されるまちづくりというのを目指するために、いろいろな取り組みをしております。これは男女の問題も含めて、子供さん、高齢の方、外国人みんな全ての方が当然住みやすい街というのを小山市としても目指しております。ただ先ほど、市民生活部長が言ったように、小山市で一気に外国人の方が、ありがたいことに増えてきたことによって、外国人の方と接する方法に戸惑ってしまっている人、そういったもののそういった方たちとの対応が、もしかする誤解とかそんなのも含めながら、外国の方、外国籍の方などを傷つけるような、そういったことにつながっている。だから我々がやっている人権は啓発と教育という2つをやっております。お子さんたちこれから育つ方には教育の中で、人権が尊重できるような子どもたちに育ててもらおう。そして啓発は大人の方、小山市の地域の皆様にこういった人権に関することに関心を持っていただくことで、そういう方たちとの対応が変わっていくんじゃないかと、そういったことで当然小山市だけではできないので、そういうことを推進するリーダーの方たちなども組織していただいて、小山市内でそういう活動もしております。まだまだ行き届かないところもあるかと思いますが、広くそういう窓口なども設置して、相談などもやっておりますのでいろいろご意見をいただいて、いただいたことについて対応させていただきたいと思いますのでお声を寄せていただけるように、こういった場も利用していただいて、どうぞお声を寄せていただければと思います。

○阿久津委員長

ありがとうございます。本当にお互いが歩み寄らないと解決しない問題と思うんですね。言う側も言われる側も、考え方の違いもありまして、伝わってると思っても伝わってなかったり、思ってること100%伝わってればそういうふうにはなっていないと思うんですよ。さっきも話したんですけど、ゴミの捨て方一つにしても、ちゃんと説明をしてなかったのか、説明はしたんだけどその中身がちゃんと伝わってなかったというところもあると思うので、これからそういうところも、どんどんやっていけばいいと思います。

○参加者

田園環境都市としていろんな意見があったと思うんですけども、都市部のお話がわりと多かったのかなと思うんですが、私は思川沿いの土手を一度、市の方とか皆さんでぜひ歩いてほしいなと思っていて、思川桜が結構きれいに咲いてる箇所などもいくつかあるんですけども、かなりの量のゴミが落ちております。市民の方が皆さん歩いてたりするので、拾ってる方とかも個人的にいらっしゃったりして、一時的にきれいになったりもするんですけど、また誰が捨てるのかわからないんですが、相当の量のゴミが私が見る限りありまして、私も広告デザインをやっているんで写真を撮りに行ったりとかたまにするんですけども、何度かそこで市の方にメールなどもしたりとかもしたことがあるんですが、どうしてもそこら辺がどうにもならないのかなというのがあり、どうにか行政が関わることで、そういうゴミ問題が活発になるのかなという部分もあったりするので、市民活動なのか地域活動なのか、ボランティアなのかかわからない

ですけども、そういったものを積極的に取り組んでいただいたらいいかなと思ってます。実際、動物がいっぱいいるんです。私、キツネを見まして、本当にいるんです。すごいことだなと思ってるんです。タヌキも普通によく見ますし、鳥もいろんな種類いますし、ひかるとレイちゃんもいるんですけど、本当にいろんな動物が本当にいて、野ウサギとかもいるんですよ、そういったところも都市ばかりでなく、田園環境都市としての田園の部分、その共存を目指す20年30年後を目指していただけたら、みんなできたら素晴らしい小山市になるんじゃないかなと思ってます。あと2つありまして、渋滞めっちゃくちゃ多くないですか、それはどうにもならないのかな。それと小山市ってすごくラーメンおいしいです。それが有名になってきてるので、ぜひ小山市で取り上げていただいたら。ラーメンが激戦区です。

○阿久津委員長

おっしゃるとおり、動物も多いですし。時間も残り少ないので、まだ喋ってない方にお話し聞いてもよろしいですか。

○参加者

真岡市民ですけど、9年間、小山市で人材派遣業の仕事をさせていただいております。メインは外国人で人材派遣を行わせていただいております。先ほどの話の続き、情報に関するところなんですけれど、きちんと説明しなかったのか、理解しなかったのか関連する内容として、例えば外国人向けあるいは外国人扱いがある施設やお店などに、市の方から情報を流してほしい情報などございましたら、例えばお店などの責任者へメールにて配信をしていただければ、こちらできちんと指導したりですとか、そういうのもできると思います。意見を述べさせていただきますましてありがとうございます。

○参加者

私はサクッとおやま、小山市のプロモーション活動を3年近くしています。小山市の魅力、ずっと小山市に住んで豊田というところで生まれて、いま大谷地区で子育てしてるんですけども、しもつかれいを世界に誇れる郷土料理としてアップデートしてといこうという活動にも関わっております。先ほどの田んぼアートの伊藤さん、ナイジェリアハウスでコーディネーターとしても活動しております。そういった様々な活動の中で私が言いたいと思うのは、小山市に対してまず不満というところで、大きく言わせていただきたい、プロモーションが下手というところです。すいません、この場で言ってしまっ。小山市の魅力、たくさん出てると思うんですけど、その中で魅力があるからいろんなところに、先ほどたくさんの方とお話しさせていただいたんですけど、小山市を選んだ方がたくさんいらっしゃいました。また小山駅、魅力的とおっしゃる方もいますし、そういったいろんな活動の中で私も小山市には非常に魅力を感じております。田園環境都市というところですけど、よく見ればほとんど田園です。地図を見ても上から見ていただければわかると思うんですけど、田園です。その田園こそが小山市の魅力であると

いうことを、もう皆さん自覚した方がよろしいのではないのでしょうか。農業と言ったところにも非常に魅力があるということに気づいた方がいいのではないかなって思います。それをいかに PR するかが重要な鍵になってくると私は考えております。有機農業だったり、小山市非常に生井地区の方でやってますし、ラムサールにも登録されてコウノトリも来てます。これって世界に誇れることだと思うんです。それをいかに PR するかというところで、田んぼアートを持ってくると。たぶん自然が豊かだけでは人は来ません。田んぼアートが掛け合わせると、自然に興味ない人、農業に興味ない人がそこに足を運んできます。アニメって、世界に誇れる日本の文化であるんです。これも重々承知、理解していただいて、それをいかにPRとして使っていくか、もうすでに小山市では素晴らしい絵柄がもう使われてます。これをまた復活させて小山市の魅力としてPRしていくことって、すごく重要な起爆剤になると考えているので皆さんもちょっと意識してもらえるといいのかなと思ってます。そうすると田んぼアートは世界からの注目されると思うんです。県外の方、日本全国でも注目されると思います。そういった中で、注目されるとどうなるかという人が来ます。そうすると素晴らしい田園環境を皆さんに見てもらいまして、世界的にはもう都市というよりは、素晴らしい自然豊かなところで暮らしていきたい、心豊かに暮らしていきたい、環境を守っていききたいという方に、考えをシフトされているんです。なんで都会を目指すというよりは、素晴らしいポテンシャルを持った小山市この魅力をいかにPRしていくかということが私は重要だと思えます。そうすると全ての問題がたくさん解決するんじゃないかなと思ってまして、さっきもそういった話で、ここで非常に盛り上がったんです。

○阿久津委員長

プロモーションが下手というところで、シティプロモーション課もいろいろ頑張ってると思うんですが、総合政策部長が今日お話ししてないのでちょっと触れていただけますでしょうか。

○吉澤総合政策部長

プロモーションが下手ということは、本当に受け止めさせていただきたいと思いますが、そんな中でも、シティプロモーション課で、外部の専門的な知識を持った方を招いたりして、いろいろ研修等は庁内的にはやっておりますが、徐々に広報等も改善したり、ホームページも来年度またリニューアルに向けて、今準備したりいろんな部分で改善をしつつ勉強しつつ進めていきたいなと思ってますのでよろしくお願ひしたいと思えます。ご意見は本当に受け止めさせていただきます。ありがとうございました。

○阿久津委員長

同じ観点から、プロモーションの件も含めて、伊藤委員と戎委員と一言ずつよろしいでしょうか。

○伊藤委員

私も、他県からこちらに引っ越してきて、4年ぐらいになる、会社勤めをしているんですけども、他県から来た人間として、福岡県なんですけど、確かに小山すごくいいところいっぱいあるのに駅前のこととか自然の豊かなこととかいいところあるのに、なんでプロモーションあんまりしないのと思ってまして、先日ご覧になった方も多と思うんですけど、笑ってこらえてで、キングアンドプリンスの岸くんが来てお店を回ってみたりとか、カフェ藤沼さんの建物に行ったりとか、いちごの里に行ったりとか、絶対バス使ったよねとか思いながら見てたんですけど、岸くんが来たところをインスタグラムで小山市でまとめて番組終了後、あげましたっていうのあれすごくいい手だったなと思ひまして、そういうプロモーションが下手なところもありつつ、若手の方の意見とか外部の方の意見だったかもしれないんですけど、そういうあたりを今後も頑張っていっていただけたらと思います。ただ市役所の方で頑張るだけではなくて、民間の方たちの発信の力というのかなり強いものもあると思うので、私は本当ただの事務のおばさんなんですけど、そういう人たちからの口コミでどんどん広まって、今ラーメンがめっちゃ熱かったりとかもすると思うんで、Twitter で、小山市と検索したらラーメンの話題がすごいいっぱい出てくるんですよ。そういうのもあるので、プロモーション頑張りつつ民間レベルでも、小山市いいところというのを一人ひとりが声をあげていくっていうところが発展につながっていくのかなと思ひました。

○戒運営委員

皆さんの意見を聞かせていただいて、思ったことが、市長も海老沼委員もおっしゃってた通り、共感共通とか、連携してるのがすごく少ないということが感じたんですね。というのも日本の教育というのがすごく大きな問題になってしまおうと思うんですが、日本というのは、敗戦国になってからGHQ施策などが入ってきているので、トップダウンという言いなりになっている方が住みやすいとか、その方が過ごしやすいというふうな刷り込みとかそういうところで、日本人はボケてしまってるという感覚でいるんですね。なのでこういうふうにごこの場に来ていて来てくださったという方は本当に、小山市を変えたいというコアの方たちなので、その意見を吸い上げてその意見を行政の人とぶつけて行政の人にどこまで協力していただけるのか、反対に一市民の方がそういった意見でどこまで民間として協力できるのかということ、実現させていながら共存していくことが、一つの20年後30年後を継続できる小山市になっていくのかなっていうふうに感じさせていただきました。小山駅が魅力的というふうにおっしゃった通り、私も小山駅はすごく魅力的な駅だと思うんですね。子供も仕事や通学でも宇都宮市にも行かれるし、東西南北アクセスとかすごく整っている市なので、そういう意味ではいろいろな方を取り巻くことができるし、その辺はアピールして行って、そういうものの魅力があるんだよってこと自体がもう当たり前になっているって事自体が問題じゃないのかなと感じさせていただけました。おーバスの件も小規模特認校ということで、世の中の保護者の方は、多くそういう学校に通わせたいんです。というのも、やっぱりその発達障害ということで、障害扱いされるお子さんというのは、普通の枠の中にお子様を入れたがる学校の教育事情が

ありまして、そういう教育から外れた子というのは不登校になりがちなんですね。不登校になった子が小規模の学校に行って不登校が改善されたという事例があるんです。その学校に行ってそこをお試しとしていっていたのが3ヶ月後、普通の元々の学校に戻ったら、そのまま通えるという風に改善があったという事例もあるんです。そういう意味で、何でおーバスを使いたいかというのは、そういう住みにくいというか、居づらい環境にお子様を、本当はそういうところに変えてあげたいのに、保護者がそこまで学校に送っていきなさいいけないという現状になると、とても難しい現状があったりするので、そういった登校下校の時間に少しバスを増やして下さったりとか、もしくはそこに民間の方が入って幼稚園バスではないけれども、そういった学校にバスを向かわせるというようなことを考えるような連携が取れたら、すぐ小山市の小規模特認校が潤って既存で残っていけるんじゃないかなと、とても下生井小学校というのは自然豊かな小山市を象徴するような小学校ではないかとは思ってはいるので、そういった意味で残していけることに皆さん、この全ての参加されてる方が力を合わせて協力してほしいなというのが、今日の参加させていただいた私の一意見です。ありがとうございました。

○佐藤副委員長

ありがとうございます。多分皆様まだまだ話し足りないことはあるかとは思いますが、時間になりましたのでこれにて第2部を終了させていただきまして、一旦事務局に進行を戻したいと思えます。よろしくお願ひします。

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。それでは最後に浅野市長からご挨拶させていただきます。よろしくお願ひいたします。

○浅野市長

結果、3時間近くになりましたけれど、たいへんご苦勞様でした。この小山市民フォーラムも、今までテーマ版については全部で7回行ってきました。今日のフォーラムは、今まで取り上げてきたテーマが、全部出てきたような感じを受けております。こうして皆さんの意見を聞いていく中で、行政として考えなければいけないこととして、思ったのは、やはり多様性を尊重していくことが必要なのかなと思えます。行政というのは、どうしてもできるだけ平等でなければいけないということで、機械的に考えていくところがどうしてもあるんです。先ほど言ったように例えば小規模特認校に通うためにおーバスを使わせられないのかということについては、他の普通に登校していて遠い距離を歩いている子供たちのことを考えると、その子たちもバスを使いたいというのであれば、なかなかその小規模特認校だけ難しいよねということで、先に難しいことをどうしても行政は考えてしまうんです。でもなぜ小規模特認校に通わなさいいけないのかと、さっきお話しがあったように、例えば発達障害があったりとか、不登校にな

ってしまいそうなお子さんなどが、小規模特認校に通いたいということで、それをその親御さんが全部送迎しなきゃいけない、どうなんだろうっていうことであれば、その事情というのを皆さんが理解してもらえれば、そこをおーバス使ってもいいんじゃないかという話になってくるんだろうと思うんです。ですから、皆さん一人一人いろんな事情がある中で、多様な人がいるんだ、一緒に暮らしてるんだということをみんなが理解していった時には、単に機械的な平等ではなく、実質的な平等というものを、私たちは手に入れることができるようになるんじゃないのかなというふうに、先ほどのお話なんかを聞いて感じました。機械的に扱った方が、ある意味難しくないのですけれども、やはり外国の方が 70 カ国から7,000人もいらっやっていて、これからますます増えていくという中で、多文化共生、そしてずっと日本に住んでいる人たちもいろんな事情でいろんな暮らし方をしているという、多様性をこれから尊重していかないと本当に暮らしやすい街にならない、そういう意味では難しいことなんだけれども、きちんと考えていく、途中で考えをやめて、これは無理ですというのではなくて、どうしたらできるんだろうという方向性でいろいろ考えていくことが必要なのかなと感じました。7回やってみて、最初の1回目のフォーラムと比べると、実質的な意見交換ができるようになってきた、市民と行政がきっちり意思疎通できる事が、より良いまちにするための最低必要な条件だと思いますので、これからさらに皆さんと一緒に、行政市民がしっかりと意思疎通できる、そういう街を目指していきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします

○篠原シティプロモーション課長

ありがとうございました。最後になりますが、今回の市民フォーラムにつきまして、アンケートをご用意しておりますので、ご記入にご協力くださいますようお願いいたします。記入が終わりましたら、裏返して、そのまま机の上においてお帰りください。なお、ボールペンにつきましては、感染対策のため消毒しますので、お持ち帰りにならずに机の上に置いたままをお願いいたします。お帰りの際には職員が誘導しますので、西側のエレベーターにお乗りいただき、入館時と同様に庁舎西側の出入口からお帰りください。

以上をもちまして、令和4年度第3回小山市民フォーラムを終了いたします。本日はご参加いただき誠にありがとうございました。(終了)